

日本共産党

くろはま ニュース

NO.3

9月議会

「空き家対策」で市が2つの具体策を明示

市民の要望受け、共産党が一般質問で取り上げる

蓮田でも「空き家」が目立って増えてきています。それに伴い、「屋根の瓦が道路に落下した」

塀や雨樋などを直撃し、壊れた」などの苦情が、前年度は36件寄せられています。所有者が不明または連絡が取れない、費用負担が困難などの理由で対応が進んでいないのが現状です。日本共産党の栗原議員は住民の要望を受け、江ヶ崎の例を示しながら

ら市に早期の対応を求めました。

「空き家バンク制度」は今年度にも導入

市が示した具体策の1つが「空き家バンク制度」で、市が「空き家」所有者と購入・賃貸希望者の仲介を行う制度です。これにより、「空き家」問題の発生を減らし、新規定住者が来て地域活性化にもつながります。

実効性ある「空き家等対策計画」は再来年度までに策定

現在の「空き家対策特別処置法」は、撤去費用や裁判所等の関係機関との調整が多岐にわたり必要なため、埼玉県では4年間で16件の申請にとどまっています。(蓮田市は0件)

そこで実効性ある2つ目の具体策として、蓮田市でも先進事例などを参考にし、来年度から2カ年計画で「空き家等対策計画」を策定する予定との考えが示されました。解決に向け一歩踏み出すこととなります。

皆さんと力を合わせて実現しました

整備中の黒浜貝塚公園の人家との隣接地区に草が生い茂り、「刈り取ってほしい」との要望がありました。現地はごく一部の所だけですが、草丈も高く密生しており、「風などで、草の実や、虫も飛んでくる」との苦情です。

栗原議員が市の社会教育課に要望を伝えたところ、早速対応がなされ、景観も大変良くなりました。

市内小中学校のトイレ改修は早急に!

新日本婦人の会は、改善を求める生徒、父母の声を受け、市内全小中学校のトイレの実態調査を行っています。11月7日に黒浜北小学校と黒浜西中学校の調査を行いました。

築後35年が経つ黒浜北小は老朽化し、夏には特に悪臭がひどく、和式便器のフチが欠けたり、和式便器のフチが欠けたり、どのトイレも木製のブースやドアの下部が腐食し、壁のタイルは

ポロボロにはげたまま。最も通学時間が長い児童は自宅まで1時間かかり、学校でトイレを我慢した時の辛さは大変なもの。また先生方が臭気対策や消毒に心を砕き手を割かれています。実態もわかりました。

次に訪ねた黒浜西中は全面改修がほぼ完了しており明るく快適なトイレで、学校間に大きな格差があります。市は校舎の全面改修にあわせ順次改修を行う計画ですが、早急な取り組みが求められます。



「水道はつかえません」と長期間張り紙されたトイレの手洗い(蛇口からは茶色の水が出てきた)。



和式便器のフチが欠けていた(⇒下の部分)。

【ともに黒浜北小で撮影】



↓対応後

↑対応前